

令和4年3月29日 高校と地域の連携強化戦略会議 議事録  
地方創生推進課

### 会議の趣旨

高校と地域が連携した人材育成のための教育環境づくりの具体案を協議していただく場として設置している

### 市長あいさつ

この取り組みは、地域にある危機感から端を発している  
地域に何とか子供たちをつなぎとめたいなという大人、地域が、子供たちをどう応援できるのかという、子供たちを思う気持ちなのかなという認識でいる  
そうした、人材育成こそが、持続可能な地域づくりに欠かせない  
皆様の活発な議論を通して、このまちの未来が、もっともっと明るさを増すよう期待をしている

### 委員自己紹介

#### 上水流委員長

安芸高田市とは多文化共生で10年ぐらい関わってやってきた  
今はちょっとブランド認証する委員会の委員もさせていただいている  
石丸市長が話されたとおりに、地域につなげるためというよりは、「ここに住んでいても、夢をかなえるためにどういうことができる」ということを考えていければいいかなと思っている

#### 佐田尾委員

中国新聞に所属している  
現在、県内では安芸太田町の地方創生のアドバイザーを務めている  
同じ内陸の町として、それぞれに厳しいものがあると思うが、何か相互にヒントを見つけて、アイデアをうまく結びつけられるようなことができれば、トータルに地域を元気にするという視点を持ってやっていきたいと思う

#### 牛来委員

ソアラサービスという会社の代表をしている  
弊社はシェアオフィス、商品開発、起業支援などの業務を行っている  
神楽女子が弊社の中にもおり、そこから安芸高田市とのプロジェクトが動いた時期もあった  
高校生との取組は初めてだが、大学との連携は過去に経験がある

#### 本多委員

高宮町で米作りメインの会社をやっている  
私自身は地域代表かなとも思う  
地域にいたらわからないこともあるんで、地域の視点をお伝えし、逆に地域外からの声もいただいて、客観的な議論に加われたらと思う  
何かしらもお力添えになればいいかなと思っている

#### 福岡委員

地域おこし協力隊をやっている  
2年前に、広島市の方から引っ越してきた

高校生との関わりでは、月曜日の7時間、向原高校で畑を作る授業をさせてもらっている  
多文化共生推進リーダーの養成でも高校生と接点があった  
今、高校生さんと関わって、広島にいるときよりも、安芸高田市の方が、何かすごく学ぶことが多いなという実感がある  
地域の皆さんの暮らしそのものが学びになる感じがある  
高校生にどんなことが届けられるかなと楽しみにしている

### 久保委員

広島市西区から毎日70キロ、1時間10分かけて往復している  
吉田高校の校長に就任して、ちょうど1年になろうとしている  
学校は10年先を見越して、10年間継続できることを継続的にやる必要があると思っている  
教育指導、地域の児童にはやはり10年間やらないと、地域の方に伝わっていかない  
そうした中ではあるが、1年1年が勝負と思いやっていききたい  
多面的な切り口による議論により、活性化につなげていきたい

### 澤村委員

広島市から向原高校に通っている  
向原に来て、何とか高校の様子をPRしていこうと、新聞でいろいろ地域の方々との活動を紹介して  
いただいている  
安芸高田市内の高校でも吉田と向原は環境が全く違っている  
吉田は商店がいろいろとあり賑やかな感じ  
一方、向原は芸備線こそあれど、やはりさびれている感じはぬぐえず、その町の中に高校がある  
何とか、地域とともにやっていくことが大事だと思うので、この会議を機に、地元で声をどうい  
かせるか、議論が展開できたらと思う  
3月で退職が決まっているので、次期校長にも伝えておく

### 猪掛委員

安芸高田市の出身で、これまで教育委員会、農業の関係など、いろんなことを経験してきた  
最近、特に高齢化が進み、子供の数が少なくなったなというのを本当に実感する  
すごくここに来て、人口減というのが、大きな顕著な課題になってきたと思う  
高校は市の管轄ではないので、今まで交流はなかったと思うが、やはり、地元にある高校を、ま  
ちの小中学生が、身近に感じて欲しいし、そこに、進学したいと思えるような体制もいるんだら  
う  
地域との連携の中では、親の見方も関係してくると思う  
全体として高校の魅力を作りながら、みんなが関心を持って見ていくという地域づくりが  
いるんだらうと思っている  
この枠組みの中で、いろんな意見を出していただき、盛り上げていければと思っている

## 事務局 紹介

### 議事

#### (1) 高校と地域の連携強化事業について

##### 背景

- ・市内の高校への入学者の減少 人口減少とか少子高齢化といったようなところが大きく影響
  - ・地元中学からの進学が減少してきている
  - ・市外に出た若者がその後、本市に戻ってきていない
- 危機感から、こういった取り組みの方をしていく必要があるところから始まっている

令和2年 高校と地域の連携強化準備委員会を立ち上げ

その中での意見

- ・市内の中学生に、高校生の姿があまり見えていないのではないか
- ・高校生に対して地域のことを伝えきれていないのではないか
- ・関わる機会が少ないのではないか

委員会の中での意見から、

- ・高校と地域、小中高との連携強化を進める
- ・高校の特徴を作って発信をする

このことに取り組んでいこうというような方向性の方が議論されてきている

今年度、実際に高校と連携した取り組み

- ・石丸市長と高校生が、意見交換をするような場の設定
- ・地域おこし協力隊との高校と連携  
向原高校、吉田高校、両校に地域おこし協力隊がいろんな形で関わらせてもらい、実践的体験的な学習も、実施をしている
- ・両高校の学校運営協議会への参加
- ・情報発信で、広報あきたかたに高校紹介コーナーを開始

今後に向けて

- ・高校のニーズ、ビジョン、学校の戦略を踏まえた取り組みにしていく必要がある
- ・この取り組みを全体的、一体的に推進していく体制づくり
- ・地域が地元高校をしっかりと応援して協働し、これからの地域社会を担う人材を育成していく教育のあり方が、安芸高田市の地方創生の思いである
- ・戦略会議の役割は、高校と地域との連携のあり方を戦略的に協議する場とし、協議体制、人数感、多分野、市内・市外の視点で意見を出していただくところを、意識して、それぞれ委員にお願いさせてもらった
- ・担当課としてのポイントは、生徒が主役であるということ
- ・大人の都合で、地域に子供たちを引きとめたいということではなく、生徒の自己実現に向けての取り組みをどう地域がバックアップして応援していけるかの視点で、話をしていきたい
- ・戦略会議でいろんなアイデア等をいただきながら、提案とか、助言をいただき、実際にはそれを実践するための共同体制を構築していく必要があると思っている
- ・地元の企業、事業所、地域住民など、いろんな地域の関係者の方と一緒に、実際にアイデアを実施していく、体制づくりということも併せてやっていきたい
- ・本日は、現状の確認と、各高校の取り組みの共有を図らせていただきたい
- ・4年度、新たに高校応援プロジェクト補助金を予算計上している
- ・その有効活用に向けてのご意見等もいただければと考えている

## (2) 吉田高等学校の学校紹介

- ・パンフレットでは神楽部の様子を紹介している。今年8月に全国総合文化祭に神楽部が出演予定
- ・吉田高校は探求科とアグリビジネス科の2科
- ・探求科は、生徒の主体性を育てるという趣旨により、3年前に設置
- ・アグリビジネス科は115年前に農学校として設立された流れをくむ
- ・農場にはブドウ畑があり、面積の広さ的には安芸高田市でも最大級を誇る

- ・全国オンリーワンの取組として、公立高校としてクラブチームのユースを受け入れていること
- ・ユース生の各学年 12 名はプロを目指して頑張っている
- ・このような特色ある取組は行っているが、定員 160 名に対して 110 名と達していない
- ・110 名のうち、6、7 割が吉田中学校から、2 割前後が美土里や高宮など、その他の市内中学校、残りの 1 割程度が市外の広島市安佐北区や三次市などから通学している
- ・もともとは大規模校で部活動も県大会へ出場していたが、近年は、人数不足から、幅広い部を設けたいが、人数が集まらない状況もあり、苦慮している
- ・中学生の選択肢の一つは部活動でもあると思うので、部活動の活性化はテーマであると思う
- ・進路は、100 名のうち、15 名程度が国公立進学。この国公立 15%は実は高い数字で誇らしい
- ・55%くらいが私立大学や専門学校等、30%が就職となっている

### (3) 向原高等学校の学校紹介

- ・1 学年 1 クラス
- ・学校活性化地域協議会を設置しなければならない状況となっており、3 年間のうちに志願者をふやしていく取組が本年度スタートした
- ・全生徒 80 名をきる状況が 3 年間続くと統廃合の対象となってしまう
- ・新生は 21 名、2 年生は 18 名、3 年生は 36 名で、全生徒数は 80 名をきる
- ・実は来年度、定員 40 名入ってくれたとしても、全校生徒合わせで 80 名に足りない
- ・3 年間ですぐ統廃合という判断にならないよう、学校としても活性化に取り組んでいきたいと思うし、学校だけでなく地域そのものが活性化していくことも大事だと思う
- ・向原地域が元気になっていかないと、人口、子どもが減ってしまうことにもつながるので、地域とともにという視点が大事なのだと思う
- ・生徒の学力は、生徒よっての学力差が大きく、進路希望も、進学もあれば就職もある
- ・今年度から SDGs の視点を取り入れて教育活動や地域活動を考えていくことにした
- ・月曜日の 7 時間目に好きな講座をとれるステップアップ講座では、地域の方を講師に迎え、いろいろな経験を伝えていただく場としている
- ・空き教室も地域の資産ととらえて、地域の人たちにも来てもらって学びの場となるよう、絵手紙教室や、スマホ教室を実施した
- ・地域の方が講師になったり、または、生徒が地域の人に伝えたりといった関係性の構築から、徐々に地域の中に参加していく流れが作っていかれたらと考える
- ・生徒が幅広い分野の学びとして、ガーデニングやドローンなども用意できている
- ・生徒の在籍状況は、令和 3 年度、向原 0 人、甲田 8 人、あと白木中から
- ・令和 4 年度は向原 2 人、甲田 3 人と、地元の中学生在進学しようとしな
- ・その点が課題だととらえており、地元の子を地元で育てるということを何とかしたい
- ・高校生たちが希望することはいろんなことをやっていく
- ・地元の高校を選んでもらえるような、地元に行った方が良いと思えるようなことをしていきたい

#### 質疑応答

##### 猪掛委員

- ・向原高校の学校活性化地域協議会は何回開催されたか

##### 澤村委員

- ・5 回開催した

##### 上水流委員長

- ・安芸高田市内の中学校の進学状況は

#### 事務局

- ・次回、資料を提供する

#### 牛来委員

- ・普通科、生活福祉課は今もあるか

#### 久保委員

- ・この2つの科は、探求科になる前のもの。現在は、その2科をまとめた形になっている

#### 牛来委員

- ・資料にその他の地域から入学があるのは、どのような背景があるものか

#### 久保委員

- ・神楽部に入りたいので遠方からやってくる生徒がいる。年に1人くらい、神楽でやってくる
- ・遠方からでもやってくるのは魅力がある証だと思う。神楽甲子園に出たいなど、神楽も1つの特色だと思う

#### 牛来委員

- ・アグリビジネス科というのは珍しいものなのか

#### 久保委員

- ・農業を学ぶ中に商品開発を組み込んでいることは特徴だと思うが、ビジネスにつながる学びという点では他にもある

#### 牛来委員

- ・高校の取組の中で生まれたヒット商品などはあるか

#### 久保委員

- ・油木高校がナマズを育てている事例などはあると思う
- ・本当にビジネスになって定番化されどこかの売り場に置いてもらえたらとも思うが、高校は利益を上げられないという悩みもある

#### 牛来委員

- ・学生が起業するなど、方法はあるのではないか

#### 久保委員

- ・連携の事例として、協力隊や道の駅と連携し、小玉なしの商品開発に協力した
- ・道の駅とのコラボ商品開発は第2弾の話をしている。全国に名をはせるようなことには興味がある

#### 佐田尾委員

- ・早急に生徒減を食い止めるためには、会議のペースを上げないといけない
- ・実際に安芸南や呉昭和などは統廃合になる

#### 澤村委員

- ・ハンドボールが全国に行くことは向原高校の特徴
- ・ハンドボールで私学に行く生徒や、県外に出る生徒がいるが、その子たちを引き留められないか指導者もいるし、地域をあげて、小中のところから何かやらないといけないと思うが、なかなかできないことが悩みである